

(コラム) 「自立」と「自律」



日頃は「子供の居場所づくり事業」にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

令和になって最初の成人式。本市では今年から会場を阪神甲子園球場に移して開催しました。バックスクリーンを背に新成人代表者が「自らの力で希望の扉を・・・」と力強く成人になった決意を表しましたが、この日、どれだけの新成人が「責任ある社会の一員」として大人の仲間入りした事を自覚したのだろうかと、つい思いを抱いてしまいました。

と言うのも、昨年、日本財団が世界9カ国の17～19歳に行った調査で、「自分は責任ある社会の一員だと思う」と答えた若者の割合が日本は44.8%の最下位で、8位の韓国から30%も低い結果が出ました。なぜ諸外国に比べて日本はダブルスコアで負けてしまっているのか？といろいろと考えさせられるものが有ります。「もしかすると子供の頃からの環境の違いに一因があるのかも・・・」と。

サッカー元日本代表監督の岡田氏が、日本人が世界で勝つためのノウハウを「岡田メソッド」として紹介しています。スペインのクラブチームの育成法など参考に「“自立”した選手を育て“自律”したチームを作る事が大切」とその本では説かれています。例えば、早い段階でプレーの原則を習得させた後は、選手たちに主体的な判断を促し自由にプレーさせるというもので、監督の指示を仰ぎがちな日本のスタイルに一石を投じています。

ひよっとすると、子供の頃から、この“自立”と“自律”に向けた環境を提供する事で、将来、サッカーに限らず、世界に引けを取らない新成人たちを育む事ができるのかなと思ったりもします。

ところで、“自立”と“自律”は同じ読み仮名ですが微妙に意味が違います。“自立”は他の助けを受けずに一人で行動できる事。一方“自律”は自分が決めたルールで自らの行動をコントロールする事。どちらも子供の成長をはかる上で、よく使われる言葉ですが、具体例で言うと、朝、誰かに起こしてもらわなくても自分で起きられるのが“自立”。朝、7時に起きようと自分で決めるのが“自律”です。

では、どうすれば“自立”と“自律”を育む事ができるのでしょうか？もちろん子供一人一人成長のスピードや伸びるポイントに違いがあるので、あくまで一般的な話ですが、一つは、いかに子供に考えさせ、判断をさせる機会を与えるかです。子供の前に選択肢があると大人は、つい子供に答えを指示してしまったり、間違わない仕組みを求めたりしがちですが、これが続くと指示待ちの子になる恐れがあります。次に大事なのは子供が出した答えが間違っていたとしても、即全否定せずに何が間違っているのか一緒に考えなおす姿勢です。また、正解を出したり、やり遂げたりした時は、しっかりと、その事を褒めたり認めてあげたりする事で次の自信につながり“自立”や“自律”の心が備わりやすくなるのではと考えられます。

当事業では、敢えて宿題の時間を設けたり、実施途中で帰宅する必要があっても緊急の場合を除いてスタッフが帰宅を指示する事はいたしません。できるだけ子供自身に選択肢を与え、自分で判断してもらいたいと思っております。実際に事業の中で自ら宿題を始めたり、帰る時間になると遊びを止める子が増えてきた感じがします。

あと数年後には、今の子供たちも成人式を迎えますが、一人でも多くの子供たちが胸を張って大人の仲間入りを、バックスクリーンを前に宣誓してほしいと願っています。